

E—20 現代における親子関係についての調査研究 (第4報)

—高校生の親子関係の事例分析を 通して—

梶山女学園大家政 ○長谷川照恭
梶山 正弘

1. 現代における親子関係について、第1・2報では特に高校生段階での親子の意識のズレを中心に、アンケート調査から一般的傾向とその相関関係を明らかにした。前報では、高校生とその父母の作文の分析を通して親子関係の具体的問題を明らかにした。そこで、今回はその代表的なものの事例を追求することによって問題の背景を明らかにすると同時に、一年後の変化のあとをたどることによって、親子関係の問題解決のあり方を求めた。

2. 第3報まで対象にしてきた200家族の中から代表的なもの10家族を抽出し、これまでのアンケートと作文を基礎に、父・母・子3者一緒にインタビューし、親子関係をいろいろな角度から話しあい、それを記録するという方式をとった。

3. その結果、①第3報で親子関係の問題は個々のケースによってかなり異なることが明らかにされたが、事例研究による結果からも実証された。②1年後の親子関係にはかなりの変化がみられ、それらは全て生活経験の連続的、必然的結果として生じてきている。③親子関係の問題は社会制度にも影響を受けている。たとえば、勉強や成績については、入試制度などのためにそれが各家庭で深刻な問題となり、親子関係や子どもの成長まで強い影響を与えている。④親も子もお互いに真剣に、しかも、冷静に話し合うことによって、いい親・いい子どもになろうと努力している。